

編集後記

今巻は二つのテーマをめぐる特集号としました。

一つは、「ルター『マグニフィカート講解』五〇〇年」の特集です。この五〇〇年を記念して、研究所では二〇二一年二月二日、クリスマス講演会（オンライン）を開きました。講演「待つということ」（江口）及びシンポジウム「ルターとマリア」（滝田、多田、安田）、そしてバッハのマグニフィカートの演奏・解説（加藤）がありました。その際なされた講演、シンポジウム発題、演奏解説を、筆者によっては、その後内容を更に展開していただき掲載しました。

もう一つは、「ルターと戦争」の特集です。二〇二二年二月二四日、ウクライナ戦争が始まりました。研究所では、それを受けて「コロナとウクライナの時代——ルターが今、この時代に生きていたら」というテーマで、二〇二二年五月三〇—三一日、「牧師のためのルター・セミナー」（オンライン）を開催しました。その際なされた三つの発題（高村、立山、江口）を、それぞれ論文にさせていただき掲載しました。

なお、宮本論文、石居論文は、上記の特集とは別箇のテーマをめぐる論考です。

どうぞ、お読みください。

二〇二二年一〇月

ルター研究所所長 江口 再起